

若者が活躍するまちづくり事業について

<目次>

1 若者が活躍するまちづくり事業

(1) 仙台若者アワード

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

(3) ユースチャレンジ！コラボプロジェクト

2 これまでの取り組みから見えてきた課題等

3 若者の意識（国の調査結果より）

4 主なターゲットから見た事業体系

5 若者のまちづくりへの参加等に関する実態把握調査

1 若者が活躍するまちづくり事業

(1) 仙台若者アワード

- 若者団体の社会貢献活動を表彰するとともに、若者と多様な主体との連携による取り組みを促すなど、若者の社会参加を促進
- コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、一般社団法人ワカツク、本市による実行委員会を組織し、平成29年度から実施
- 「表彰部門」
 - ・・・社会貢献活動を行っている若者団体を公募し、公開プレゼン形式で審査・表彰
- 「協働部門」
 - ・・・企業の参画を得て、当該企業との協働でSDGs達成の取り組みを行う若者団体を募集しマッチング令和2年度から新たに実施



1 若者が活躍するまちづくり事業

(1) 仙台若者アワード

【令和3年度(第5回)】

■表彰部門(応募数8団体)

最優秀賞: DIYYs

2021年に宮城県亘理町でスタートした「WATARI TRIPLE C PROJECT」のDIY学生団体。県内の6大学の建築学生14名と学生カメラマン1名の計15名で活動。主に、鳥の海エリアにて、まちや人に必要とされているものを創るなど、地域のみんなでまちをDIYするための企画・運営を行っている。

■協働部門

テーマ① 『お茶とお菓子で孤立を防ぐ！新しい仙台のお茶文化モデルの構築』

お茶の井ヶ田(株)、医学生団体:ari

⇒喜久水庵東仙台店にて「井ヶ田図書館」をオープンさせ、お茶やお菓子を食べながら、地域住民の交流を促進。

テーマ② 『夢を持って活動する若者を増やす』

一般社団法人東松島みらい都市機構(HOPE)、若者団体:miraie

⇒クラウドファンディングを利用し、「miraie2021 in 東松島」を開催。昼から夜にかけ、様々なイベント交流を実施。



※令和3年度もプレゼン最終審査はオンライン形式
(写真は令和2年度)

【令和4年度(第6回)】

<表彰部門>

11月下旬 プレゼン最終審査開催予定

1 若者が活躍するまちづくり事業

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

- ・ 若者が実践型プログラムに参加し、「自分ごと」としてのまちへの関わり方を探求
- ・ 若者のアイデアを地域課題の解決や地域活性化に活用
- ・ 「主体的に動く若者」や将来の協働パートナーの発掘・育成
- ・ 令和2年度から実施

【実施内容】

- ・ 市内に居住または通勤・通学する18歳から概ね30歳の方を公募、ワークショップ・フィールドワーク・最終報告会を開催
- ・ 同世代の社会人がメンター（相談・助言者）としてサポート
- ・ フィールドワークでは、参加者は「まちの特派員」として様々な人や取り組みを取材・発見



1 若者が活躍するまちづくり事業

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

【令和3年度】

- ・ 参加者33名が6つのグループに分かれて活動
- ・ グループで取材・探求したアイデアやアクションを報告会で発表
- ・ 報告会后に本市の部署と連携が生まれたグループも

■発表チーム

<チーム①仙台っ子Craftsめん>



<チーム②Busy Bees>



<チーム③#仙台ただいま転勤中>



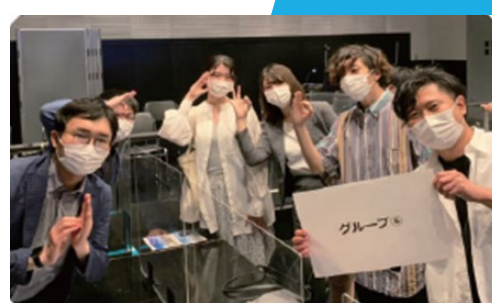
<チーム④Project HIKARU>



<チーム⑤1000 Diver-City>



<チーム⑥商店GUYS>



1 若者が活躍するまちづくり事業

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

- ・ スケジュール

月 日	項 目	内容等
7月6日	ワークショップ①	・市長挨拶 ・地域の魅力発見や取材についてレクチャー
8月24日	ワークショップ②	・チームごとに取材先やテーマについて話し合い ※オンライン開催
10月6日	ワークショップ③	・テーマ決定に向けて掘り下げ
11月2日	ワークショップ④	・テーマ、チーム名の発表
12月1日	最終報告会	・市長出席 ・チームごと発表

1 若者が活躍するまちづくり事業

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

【令和4年度(案)】

- 昨年度からの主な変更点

- ① オープンワークショップの開催

⇒本市関係部署を巻き込み、職員による各部署の取り組み紹介と、意見交換等の交流の機会を設け、テーマ設定の一助とする。

「若者ラボ」参加にハードルの高さを感じていても、活動の説明や意見交換等の交流から、雰囲気を感じ取っていただいたうえで、今後の参加を考えることができる

- ② チームを超えた交流

⇒最新の感染者数の状況を見つつではあるが、昨年度、コロナ禍により開催できなかった中間報告会を開催する方向で調整し、他のチームとの意見交換等の交流の機会を設ける

- スケジュール

昨年度と概ね同様を予定。

7月：オープンワークショップ、10月：中間報告会、12月：最終報告会、1月：交流会

1 若者が活躍するまちづくり事業

(3) ユースチャレンジ！コラボプロジェクト (若者版・市民協働事業提案制度)

- NPOや企業等が持つ専門性を生かして、地域課題等に市と協働で取り組む
「市民協働事業提案制度」の若者版の制度として、令和3年度から開始
- 若者に親しみやすい名称になるよう、令和4年度から名称を工夫
- 若者にとって身近なまちづくりについての事業提案を募集し、市と協働で取り組む
ことにより、若者のアイデアを市の施策に取り入れ若者の発想を生かしたまちづくりを推進

【実施体制のイメージ】

<若者団体×サポート団体>

若者団体
18～30歳代で構成
3名以上

支援

サポート団体
(市が業務委託)

サポート団体は、事業提案の段階から実施まで
総合的なサポートを行う。

負担金
上限30万円

市民協働推進課
(市の協働の窓口)

- ・ 関係部署との連携
- ・ 関係機関との連携
(市民活動団体)
(地域団体)(企業)

協働

1 若者が活躍するまちづくり事業

(3) ユースチャレンジ！コラボプロジェクト（若者版・市民協働事業提案制度）

【令和3年度】

ミズベフェスタ（団体名：カワラカイ）

広瀬川の空間資源を生かしたプログラムの実施を通じて快適に遊べる水辺環境を作り、広瀬川に親しむ市民を増やすことを目的として、主に以下の内容に取り組んだ。

- ・ 広瀬川の空間資源を生かしたプログラムの実施
- ・ プログラム参加者等へのアンケート及びヒアリング
- ・ 今後の広瀬川への提案の発信



立町エリアにおけるコミュニティスペースの提供（団体名：たちまち茶々）

立町地区におけるコミュニティの活性化を目的として、主に以下の内容に取り組んだ。

- ・ 交流イベントの実施、交流コミュニティスペースの設置・運営
- ・ アンケート、コミュニティスペース事例の調査
- ・ 実施後の報告会



2 これまでの取り組みから見えてきた課題等

＜これまでの取り組みから見えてきた課題＞

○若者イベントや事業への参加の敷居がまだまだ低いとは言えない。

⇒アウトリーチ型を含む参加のきっかけづくりの場の提供や意識づくりが必要ではないか。

○既存の活動者や若者活動団体との横のつながりの促進。

⇒ユースチャレンジ！コラボプロジェクトのサポート団体による顔つなぎや、若者ラボ・若者アワードの参加者・団体における横のつながりのきっかけづくりが必要ではないか。

○上記参加団体の活動継続の支援・後押しが必ずしも十分ではない。

⇒当課の別の助成金等にスムーズに繋げられるようなスケジュール的配慮や的確な情報提供が必要ではないか。

＜前期の委員の皆様からのご意見＞

○アイデアを事業化することは大人でも難しいので、機会を沢山生み出していくしかない。

○「活躍する」というのは結果の一つであり、そこだけを目指さず、まずは関わりを増やしていくことが大事ではないか。

○既存の活動団体から事業継続していくヒント等を得られる機会があると良い。

○地域でもNPOでも担い手の確保、特に若者の力をどう取り入れるかというのは課題である。若者と一緒にやりたいという声を反映する場があるとよい。 など

3 若者の意識（国の調査結果より）

○社会参加への意識について

（内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）」及び「令和元年版 子供・若者白書」より）

※ 調査対象者：満13歳から満29歳までの男女

自分の本来の仕事や学業とは別に、他人や社会のために、自分の時間や労力を自発的に提供する「ボランティア活動」（有償・無償どちらも含む）の経験がある者ほど、その経験がない者と比べて、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」と思うと回答した割合が高い。

⇒ 他人や社会のために活動した経験がある者ほど、社会参加への意識が高い。

「経験・体験」が活躍する若者を増やすポイントではないか

まちづくりに興味はあるが行動に移せていない若者

経験・体験

まちづくりに参加する若者

4 主なターゲットから見た事業体系

【ターゲット】

まちづくりに興味はあるが
行動に移せていない若者

経験・体験

まちづくりに参加する若者

【若者が活躍するまちづくり事業】

仙台まちづくり若者ラボ
(個人で参加し、グループで体験)

活動継続を後押しする施策が
必要ではないか

もっと気軽に「体験」できる施策が
必要ではないか

仙台若者アワード
(団体・グループで参加)

ユースチャレンジ！
コラボプロジェクト
(団体・グループで参加)

個人で参加できる活躍の場を
提供する施策が必要ではないか

5 若者のまちづくりへの参加等に関する実態把握調査

(1) アンケートの実施

若者のまちづくりへの参加等をさらに推し進めるための新たな事業展開を検討するため、若者の意識や現状を把握するアンケートを実施する。

(2) ワークショップの開催

アンケート集計結果からみえる傾向等を深掘りし、新たな施策の検討につなげるため、若者の意見やアイデアをヒアリングするワークショップを開催する。

(3) 今後のスケジュール(予定)

7月上旬	アンケート項目の決定
7月下旬～8月	アンケート実施
11月～2月	ワークショップ開催
～3月末	実態把握調査結果報告